

2 送配水過程では

- 浄水場できれいにした水は、給水場や配水塔を經由してお客様のもとに届けられます。送配水方法を工夫することで、送配水に使う電力の削減に取り組んでいます。
- 水道管の工事では振動・騒音が発生するほか、地面を掘り起こすとアスファルトや土などの建設副産物が生じます。水道局では副産物を削減できる工法を採用したり、建設発生土のリサイクルに取り組んだりしています。

(1) 自然流下系を活用した送配水

送配水のためのポンプ運転にかかる電気使用量を削減するため、配水系統について検討を行い、可能な限り自然の高低差を利用した送配水を行っています。この取り組みの結果、平成22年度は678.8kWhの電気使用量を減らし、CO₂を約260.7 t削減できました。

(2) 水道管理設工事等の建設発生土のリサイクル

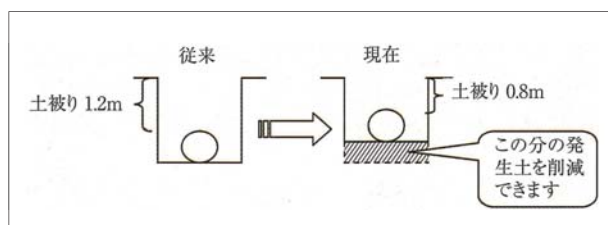
工事の際に掘り起こした土は、水分を多く含んでいるなど大部分はそのままでは埋め戻しに適しません。そこで、土質改良工場で再資源化し、掘削した道路の埋め戻しに有効活用しています。平成22年度は、83,214m³（発生土全体の77.8%）を循環的に利用しました。



【土質改良工場】

(3) 配水管の浅層埋設

現在、新規に配水管を埋設する際の土被りを従来の1.2mから0.8mにしています。これにより、埋設工事の際の建設発生土量を削減することができ、平成22年度は従来工法と比べ2,890m³削減できました。



(4) 鉛給水管の引抜き工法の採用

水道局ではより安全で良質な水道水の供給のため鉛給水管更新事業を推進していますが、平成17年度から新工法として「鉛給水管引抜き工法」を採用しています。

この新工法は幅の広い道路で、他の埋設管に影響のない場所等の工事に採用していますが、工事費用の縮減や断水時間・交通規制時間の短縮が図れるとともに、舗装面積が従来の開削工法に比べて約半分となることから、建設副産物を減量（約60%程度）することができる環境にやさしい工法です。

